

# ISO/IEC/JIS Plastics

## 事務局便り 2009年1月

### 第19回 ISO/TC 138 国際会議

第19回 ISO/TC 138 の国際会議が10月27日～10月31日の間、イタリアのローマで開催された。日本からは、TC 138 小林議長以下11名が参加して、国際規格に日本の意見を反映させ、また、国際規格の動向を調査するため、各国代表との意見交換と情報収集を行った。

本稿では、第19回 TC 138 国際会議の概要とトピックス報告する。

#### 1. 会議の概要

##### (1) 参加者

今回の TC 138 国際会議には、21ヶ国から89名が参加した。参加者が多い国のベストシーはドイツ(15名)、日本(11名)、英国(8名)で、日本は2番目に多かった。

##### (2) 会議

各会議の日程を以下に示す。

10/27: SC1/WG4, SC1/WG6, SC1, SC6/WG1

10/28: SC2, SC5/WG17, SC5/WG20, SC6/WG1, WG12/TG4

10/29: SC4, SC6/WG3, WG12/TG1, 2, 3

10/30: SC4/WG7, SC5, C6/WG4, SC6, WG12, AG

10/31: Plenary 会議

#### 2. トピックス

##### (1) SC1 (排水、汚水用プラスチック管と継ぎ手)

2つの work item を1つにした「マンホールと点検室」の原案に対するコメントを協議して原案を修正した。

13の EN を ISO 化するため、出されたコメントを取り入れて原案を修正した。今後、DIS 投票に進むことを承認した。

##### (2) SC2 (給水用プラスチック管、継ぎ手)

ISO 15874 シリーズ (PP Hot and cold piping system standard) と ISO15877 シリーズ (PVC-C Hot and cold pippins system standard) は、CEN リードで改正することを決めた。

ISO 2536 は定期見直し中であるが、その適用範囲は ISO 9624 でカバーできるため廃止を決定した。

##### (3) SC4 (ガス供給用プラスチック管、継ぎ手)

ISO 4437 (メタルシリーズ仕様) とポリアミドの ISO 15439 シリーズ (最高運転圧力が 0.4 MPa のプラスチック配管システム)、ISO 22621 シリーズ (同上圧力が 2 MPa のプラスチック配管システム) が 2007 年に発行された。

一方、ポリアミドの resistance to rapid crack (耐 RCP 性) を FS 試験と S4 試験で評価した結果間の相

関係数は 7.8 で、PE(3.6)の相関係数に比べて高いため、SC5/WG9 から、正式な見解が出るまでは、ポリマドの耐 RCP 性は FS 試験で評価することを決めた。

#### (4) SC5 (試験方法と基本規格)

CEN/TC 155 から提案された新規ゲル化試験法は開発が難しい等の意見が出て結論に至らなかった。

定期見直しでは、ISO 2505(加熱伸縮試験)に対する「加熱後標線間を直線で測る」の日本コメントは容れられた。また、ISO 6259 シリーズ(引張特性の試験方法)は投票で確認されたが、「試験片作製の機械加工条件を白化防止と厚み確保できるよう変更する」の日本コメントをメンバーの投票にかけるよう Convenor と事務局に申し込み了承された。

ISO/FDIS 21307(PE ハット融着手順)と FDIS 11414(ハット融着による PE 管/管試験片アセンブリの調製)の間で、融着パラメータに差があることがわかり、次回の会議で調整する。

#### (6) SC6 (強化プラスチック管,継ぎ手)

昨年の定期見直しで改正となった ISO 10467(下水・排水用プラスチック管システム-不飽和ポリエステルを機材とするガラス繊維強化熱効果プラスチックシステム)と ISO 10639(給水用プラスチック管システム-同上システム)は追補を作成して FDIS 投票に進むことを決めた。

一方、投票で否決された ISO/ DIS 25780(推進工法による敷設を想定したコンポーネント)は、コメントを取り入れて改正した第 2 版を再度 DIS 投票に進めることを決めた。

#### (7) TC 138/WG12 (管更生)

NP 11299-1 と -3(ガス供給用プラスチック管の更生-第 1 部:通則,第 2 部:クロスフィット工法)は承認され、CD に進むことを確認した。なお、「要求性能は各国の法律を考慮して変更可能」の文を NP 11299-1 に導入する日本提案は容れられなかった。

投票中の DIS 11295(カドライン)と DIS 11296-1, 3,-4(排水・下水管の更生-第 1 部:通則,第 3 部:クロスフィット工法,第 4 部:CIPP 工法), DIS 11298-1,-3 (給水管の更生-第 1 部:通則,第 3 部:クロスフィット工法)は、事前に入手したコメントを考慮してドラフトを修正した。

#### (8) Plenary (年次会議)

国際会議の開催に関して、①会議期間を 4 日間に短縮、②毎年 Plenary 会議の開催、③3 年先までの開催スケジュール化、などの変更を承認した。また、2009 年はフィンランド/トルコ、2010 年は中国で開催することを決めた。

以上